Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

171

小学５年～６０歳までの記憶による幼児期の印象について

古市久子
(大阪教育大学)

はじめに

伝記にはよく幼児期への想いがつづられているが、人の一生は幼い頃の記憶が何らかの生き方への支えになっていることがあるのではないか。本研究は年代による幼児期の記憶をたどることにした。

正高(2002 年)は人生はじめての記憶は3歳頃が最も多く、ついで4歳・5歳であるという。

研究方法

1目的:年代の違う人に幼児期の記憶を調査し、体験の違いから育ちへの影響を考える。

2対象:大阪府下の小学5年・中学2年・16～18 歳・20 歳・30 歳・40 歳・50 歳・60 歳代の無作為の各 400 名ずつの計 3200 名

3日時:2001 年6月配布、7月回収。

4手続き:アンケート調査を郵送し、返送にて回収。アンケートの内容は家族のこと、体験したこと、これまでの生活、お父さんお母さんのこと、について質問に答える。最後に小さい頃の思い出について自由記述を求めた。アンケートは 18 問あり、最後に自由記述で「あなたが6歳頃までに心に残ったことがあれば、それを自由に書いて下さい」という質問を行った。今回はその自由記述のみの分析である。

4回収状況:1191 人の 37%がアンケートを返送。そのうち自由記述のあったものは計 620 名であった。

結果

カテゴリは 48 個に分けられた。さらにそれらをまとめて 14 の要因に整理した。それらは、①遊び ②親 ③家族 ④友達 ⑤先生 ⑥幼稚園・保育所 ⑦死 ⑧生活 ⑨対話 ⑩地域 ⑪可愛がられた記憶 ⑫戦争 ⑬自分のこと ⑭その他 である。

図1に見られるように、要因の割合で見ると、年齢により要因の割合が違い、幼児期の記憶に差があることがわかる。

さらに要因を作っているカテゴリのなかの詳細な記述を見て、それを多い順に並べたものが表1の各年代別の項目多い順である。60 歳代で最も記述の多いのが戦争のことで、空襲の怖さや家が丸焼けになったことなど、鮮明に残っているようである。この年代の特長は戦争にまつわる事項のみならず、そこに多くの人々が登場し、関わってくれた人の心や生き方が記憶に残っている。16～18 歳では上位ではないが親の離婚や身勝手さに腹を立てて子どもはロボットじゃないと叫んでいるようなもの、親への恨みの記述が印象に残っている。今回は他の質問の結果を発表していないが、アンケートの問いで、腹が立った時の対処の仕方で「切れる」状況が最も多かった年代でもある。中学2年では自分の身体のこと、とくにケガをしたときのことが記憶されている。小学5年では家族の旅行が1位で、行く先が非常に多様化している。近くの公園やテーマパークの他に、ディズニーランドや外国ではハワイ・アメリカが多く、簡単に楽しかったと書かれている。

考察

「幼児期の思い出を尋ねることは、人の生き方の中核となっている原型が浮かび上がってくる有効な方法である」(アルフレッド・アドラー)というが、顕著に見られた点は、年齢が高くなるほど、人に関する記憶が多くて、かなり詳細で鮮明に残っていることである。また、経済的に貧しいなかにも親や地域への感謝の気持ちが書かれているのに比して、若くなるほど、短調で「旅行に行きました」というような物的体験の珍しさが目つ。そこにはほとんど人が介在せず、人間関係の希薄さがある。「体験を豊かに」ということは、物質や行事の体験ではなく、人を巻き込んだ人間関係のストーリーであることを忘れてはならない。今一度、幼児期の体験とは何かを考えてみる必要がある。また、豊かになった社会であるのに、16～18 歳の大人に対する不信感の激しさは、現在の子どもの荒々しさと関係がありはしないだろうか。17 歳問題が起きていた当時の調査であるが、このアンケートにもその様相が伺えた。非常に嫌な記憶は一過性のものに終らず、記憶として心の奥底に沈み(正高 2002)、物事を決定する基線につながっているのではないだろうか。この幼児期の記憶がもつ意味を考えるとき、人に行動基準を作る上に何らかの影響を与え続けることだとすると、幼児期に大人は何を用意し、子どもにどんな体験の記憶を残して行くことが必要なのかを検討することが必要なのではないだろうか。

NII-Electronic Library Service

表1 各年代別の項目多い順

	順位	人	項　　目
60歳代	1	11	戦争のこと(空襲の恐い記憶・・焼夷弾の中を山へ逃げた・家や学校が戦争で丸焼け・田舎に疎開・空襲で焼夷弾が兄にあたる・空襲の空が花火のよう・警戒警報のサイレン・空襲で逃げまわる・防空壕へ入った)
	2	8	両親のこと(働くばかり・忙しい・はたらきづめ)
50歳代	1	17	遊びの場所について(自然・外遊び・川遊び・海)
	2	10	家族構成(大家族でいつも誰かがきていた・大家族で人間関係が複雑だった・兄弟が多かった)
40歳代	1	8	遊び仲間(近所のこどもと)
		8	遊びの様子(朝から晩まで遊んだ・遊びに夢中で遅くなった・ほとんど毎日)
30歳代	1	5	親に聞いた話(お年寄りを大切に・人に優しくできる心を・ご飯は正座して食べよ・ 他人の迷惑を考えろ・敷居を踏んだりたたみの端を踏んではいけない)
		5	自分のこと(笑ったことが少なかった・感情を母に表現したことない・甘えたいという感情をもった記憶ない・人が怖くてたまらなかった・人に馴れないような子ども)
20歳代	1	5	母のこと(母がいないことへの想い・母の仕事の帰りを待ちわびた・怖い母であったが、大事な人・母が病弱で淋しかった)
		5	家族で旅行(海・山・自然の中・ホタルがり・外食・ドライブ)
16～17歳	1	4	家族で旅行(いろんな所へ)
		4	幼稚園のこと(ドロ団子作り・大きな積み木の家に感動・チョウチョを捕まえた・劇でやった役)
中学2年生	1	11	身体のこと(ケガ・ガラスで大怪我・ケガが多く家族に迷惑かけた・ケガ時の母が病院へ・自転車のケガ・やけど・頭をぬった・父の肩車から落ちて入院・手首の骨折・ 交通事故)
	2	9	家族で旅行(スキー・キャンプ・海・パルケエスパーニャ・ワールド牧場など)
小学5年生	1	18	家族で旅行(ディズニーランド・ハワイやアメリカなどの外国・シーガイヤやアドベンチャーワールドなどのテーマパーク・キャンプ・海・プール・山等)
	2	12	母のこと(優しかった・よく遊んでくれた)

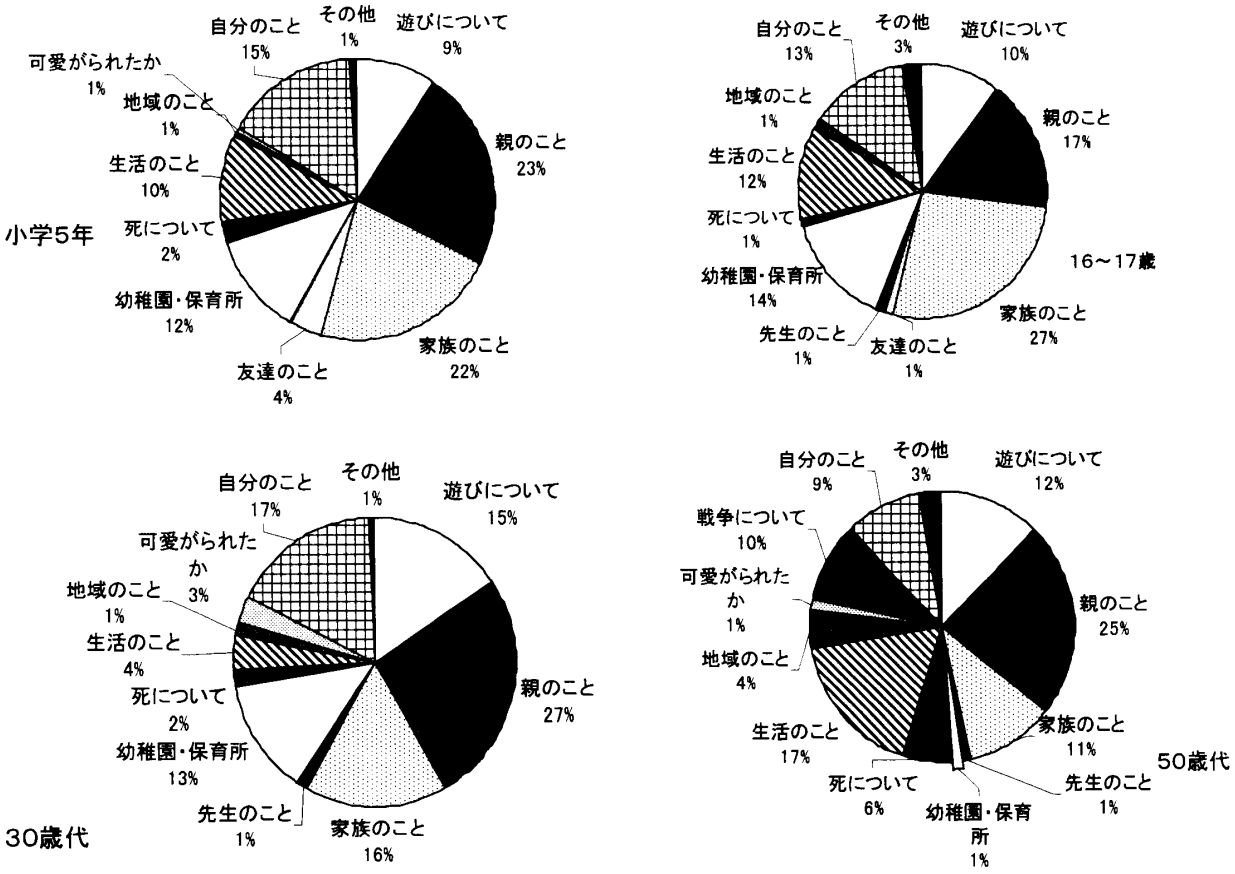

図1　記憶による幼児期の印象について要因別割合

NII-Electronic Library Service